

くすりと健康のはなし

薬包紙

第135回

医療保険委員会委員

一般社団法人岐阜県薬剤師会

永井宏忠



みなさん、8月21日は何の日かご存じですか？ いろんな記念日がありますが、この日は「献血の日」でもあります。献血の日は、1964年8月21日に輸血用血液を献血により確保する体制を確立することを閣議決定したことに基つき設定されました。

この年の3月に当時の駐日米国大使の刺傷事件があり、その治療の際の輸血が原因で大使が肝炎になったことが契機となり、当時多かった売血制度をあらため、献血による血液自給を確保する方針が定められました。その後、日本では献血による国内自給が進み、現在でも輸血用血液製剤は献血由来により100%国内自給が達成されています。

この輸血用血液製剤は全血のほか、血液中の赤血球、血小板、血漿をそれぞれ分離した製剤がありますが、現在では、全血はほとんど生産されず、上記の分離した製剤が中心となっています。また、献血由来の血液の有効活用という観点や献血者の負担軽減のため、献血者の3分の1程度が成分献血となっています。

献血に頼らない血液製剤の研究開発も進められており、例えば、もつと

身近なボランティア 献血と血液製剤の話

も有効期間が短い(4日)血小板製剤では、iPS細胞を用いて生産した血小板製剤の実用化に向けた取組みが行われています。私もこの取組みに関わっていますが、現在、臨床試験で人への投与が行われており、承認までにはまだ年月がかかる見込みであるほか、承認後も血小板需要全体を満たすものではありません。

献血対象年齢の人口が減少するという避けがたい課題もあり、献血の重要性が高い状況であることは間違いありません。今年3月にはJR岐阜駅に隣接するアクティブG内に新たに「岐阜献血ルームアクティブG」が開設されたほか、各地の商業施設などに献血バスが配車されています。今まで参加している人も一度も行ったことがない人も、身近なボランティアとして献血に行ってみませんか？

ちなみに、献血バスの配車は企業や団体などからも依頼できるので、ぜひ一度、岐阜県赤十字血液センターなどにご相談ください。献血バスの運行状況も紹介されていますよ。

岐阜県赤十字血液センター

WEBサイトは

下記からご確認ください

